

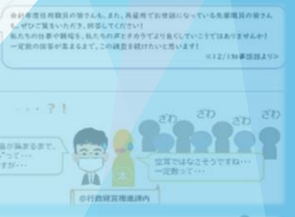
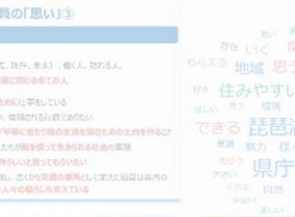
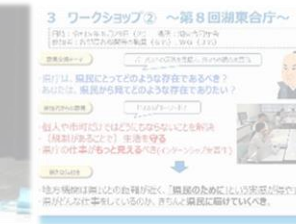
“滋賀県庁のパーパス”について考えてみる
 県庁職員一人ひとりの力、この力をもっと発揮できるように、改めて自身の仕事を振り返り、滋賀県庁の存在意義、パーパスを再確認してみたい。

“滋賀県庁のパーパス”について考えてみる
 いよいよスタートです
 パーパスとは、職員自身の存在意義を再確認し、活動にやる気を出す
 パーパスを軸として進捗活動を行い、社会に対して貢献していくこと
 パーパスは経営のメリット
 「スローモーション」からの活動
 パーパスの存在意義を再確認し、活動にやる気を出す
 「経営者のエンゲージメントを高める」
 「地域社会の発展に貢献する」
 「県民の生活の質を向上させる」
 「県民の生活の質を向上させる」



“滋賀県職員の志(パーパス)”について

～何のために、誰のために、私達が今、滋賀県職員として共に働いているのか～



研修第1
 志に込めた思い
 “志”とは、ある目標を達成するべく、行動に専ら注力すること、また、その達成のために、必要とされる行動を果敢と、進んで実行することである。

研修第2
 志に込めた思い
 “志”とは、ある目標を達成するべく、行動に専ら注力すること、また、その達成のために、必要とされる行動を果敢と、進んで実行することである。

研修第3
 志に込めた思い
 “志”とは、ある目標を達成するべく、行動に専ら注力すること、また、その達成のために、必要とされる行動を果敢と、進んで実行することである。

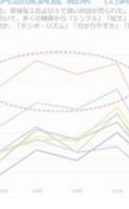
研修第4
 志に込めた思い
 “志”とは、ある目標を達成するべく、行動に専ら注力すること、また、その達成のために、必要とされる行動を果敢と、進んで実行することである。

研修第5
 志に込めた思い
 “志”とは、ある目標を達成するべく、行動に専ら注力すること、また、その達成のために、必要とされる行動を果敢と、進んで実行することである。

研修第6
 志に込めた思い
 “志”とは、ある目標を達成するべく、行動に専ら注力すること、また、その達成のために、必要とされる行動を果敢と、進んで実行することである。

研修第7
 志に込めた思い
 “志”とは、ある目標を達成するべく、行動に専ら注力すること、また、その達成のために、必要とされる行動を果敢と、進んで実行することである。

研修第8
 志に込めた思い
 “志”とは、ある目標を達成するべく、行動に専ら注力すること、また、その達成のために、必要とされる行動を果敢と、進んで実行することである。

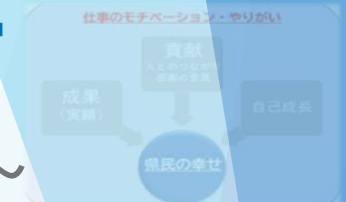


研修第9
 志に込めた思い
 “志”とは、ある目標を達成するべく、行動に専ら注力すること、また、その達成のために、必要とされる行動を果敢と、進んで実行することである。

研修第10
 志に込めた思い
 “志”とは、ある目標を達成するべく、行動に専ら注力すること、また、その達成のために、必要とされる行動を果敢と、進んで実行することである。

研修第11
 志に込めた思い
 “志”とは、ある目標を達成するべく、行動に専ら注力すること、また、その達成のために、必要とされる行動を果敢と、進んで実行することである。

研修第12
 志に込めた思い
 “志”とは、ある目標を達成するべく、行動に専ら注力すること、また、その達成のために、必要とされる行動を果敢と、進んで実行することである。



人材育成情報誌「石積み」特別号
 明日への引継書
 県庁職員として、明日の仕事を引き継ぐための準備を怠らぬよう、日々の業務に励んでほしい。

研修第13
 志に込めた思い
 “志”とは、ある目標を達成するべく、行動に専ら注力すること、また、その達成のために、必要とされる行動を果敢と、進んで実行することである。

研修第14
 志に込めた思い
 “志”とは、ある目標を達成するべく、行動に専ら注力すること、また、その達成のために、必要とされる行動を果敢と、進んで実行することである。

研修第15
 志に込めた思い
 “志”とは、ある目標を達成するべく、行動に専ら注力すること、また、その達成のために、必要とされる行動を果敢と、進んで実行することである。

研修第16
 志に込めた思い
 “志”とは、ある目標を達成するべく、行動に専ら注力すること、また、その達成のために、必要とされる行動を果敢と、進んで実行することである。

研修第17
 志に込めた思い
 “志”とは、ある目標を達成するべく、行動に専ら注力すること、また、その達成のために、必要とされる行動を果敢と、進んで実行することである。



1 県民共感度調査の結果①

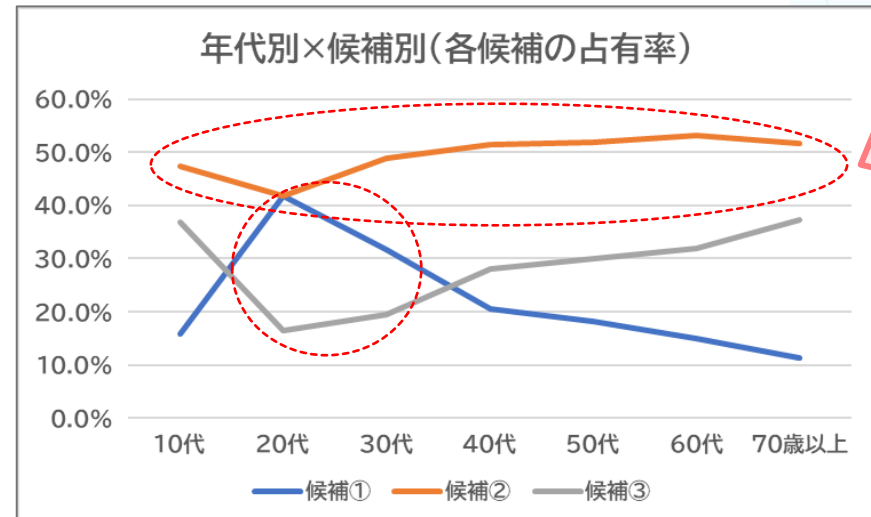
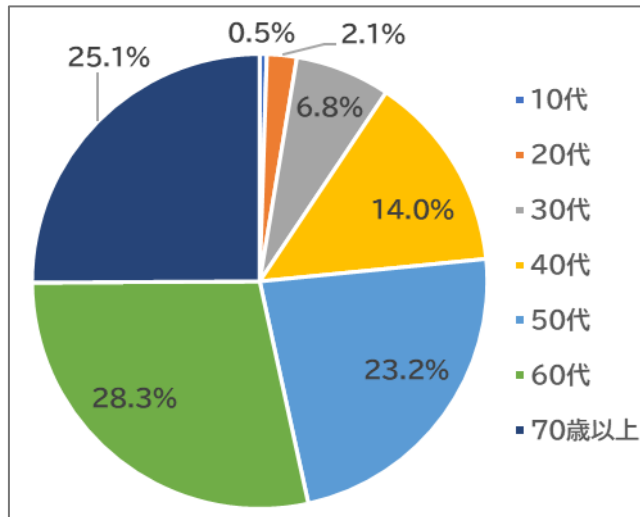
調査期間：令和6年1月19日(金)～21日(日)

回答者数：3,732人 (LINEアンケート：3,629人／しがネット受付サービス：103人)

候補	人数	割合(%)	【参考】職員共感度調査	
			総合ポイント	備考
① 琵琶湖と生きる。笑顔を広げる。未来へつなぐ。	643	17.2%	2,697pt	8つの候補案から、「滋賀らしさ」など3つの観点それぞれについて、共感する候補上位2つを選択。1位に2pt、2位に1pt付与して算定。
② 琵琶湖と暮らしを守り、幸せを三方よしでつないで未来を豊かにする	1,928	51.7%	2,072pt	
③ 琵琶湖と自然を愛し、ありがとうと笑顔で未来を豊かに	1,161	31.1%	1,308pt	
総計	3,732	100.0%	回答職員数	1,257人

(1) 回答者の年代別分析

年代	人数	%
10代	19	0.5%
20代	79	2.1%
30代	252	6.8%
40代	524	14.0%
50代	864	23.2%
60代	1,058	28.3%
70歳以上	936	25.1%
総計	3,732	100.0%



✓回答者の年代は50代以上が大部分を占める。

✓多くの年代で候補②の割合が高い。候補①は20代で同率、30代では次に高い。

✓なお地域差は特になし。県外からは60名の回答あり(別添参照)。

1 県民共感度調査の結果②

(2) 調査から見た主な共感ポイント

共感した理由など自由記述の回答を、ワード・クラウド分析などを活用して整理(別添詳細参照)。

各「候補」とそれに込めた思い

① 琵琶湖と生きる。笑顔を広げる。未来へつなぐ。

滋賀の山、川、里、湖、そして海までのつながりや、歴史・文化も含めた暮らしの象徴である琵琶湖と共に生きる覚悟を持ち続けます。滋賀に関わるすべての方が、一人でも多く笑顔でいられる社会を築きます。今だけでなく、次世代を担う子どもの視点に立ち、未来へ引き継いでいきます。

② 琵琶湖と暮らしを守り、幸せを三方よしでつないで未来を豊かにする

滋賀の山、川、里、湖、そして海までのつながりを持つ琵琶湖と、その恵みを受けた滋賀の暮らしを守ります。三方よしの精神に立ち、県民、企業・団体や国・市町の皆様をつなぎ、困っている方に寄り添い、一人ひとりが幸せを感じられるよう豊かな滋賀の未来を築きます。

③ 琵琶湖と自然を愛し、ありがとうと笑顔で未来を豊かに

滋賀の歴史・文化も含めた暮らしの象徴である琵琶湖と、山、川、里、そして海までつながる自然を愛する思いを持ち、支え、守ります。滋賀に関わるすべての方に感謝し、感謝されるよう、一人ひとりが笑顔でいられる社会を築き、滋賀の未来を豊かにします。

主な共感ポイント

- 「琵琶湖と生きる」の覚悟、責任感、強い意志
- 今だけでなく、子ども、次世代、未来を意識した視点
- 前進する力強さ、よりよい人生を送ろうという気概
- シンプル・端的、わかりやすい、リズムがよい 等々
- 琵琶湖だけでなく、日々の生活・暮らしを守ること
- 近江商人の三方よしの精神を据えているところ
- 困っている方に寄り添い、誰一人取り残さないところ
- 具体的な表現であること 等々
- 琵琶湖だけでなく、滋賀の自然への愛着や誇り
- ありがとうという言葉のわかりやすさや、人と人とのつながりが意識されること
- 表現の柔らかさ、温かみ、優しさ 等々

(3) 自由記述ご意見(抜粋)

琵琶湖・自然	○ 近い未来の中で琵琶湖愛を育む取り組みは大切だと感じる。かけがえのない子どもに寄り添って、滋賀県ならではの志を立案して欲しいと願う。 ○ 琵琶湖と滋賀は切り離しては生活していけないし、琵琶湖を守りまた、琵琶湖を囲み生活するわれわれの未来、企業の発展などは全て繋がっている。…近隣との繋がりも大切…その中心となるのは県政がしっかりしていただかないと、いざという時動けない。個人も企業も地域と共に繋がっていききたい。県職員の方々の力を期待しています。
暮らし	○ 暮らしを守るという言葉に、今当たり前前の暮らしがままならない世の中を変えるという具体的な姿勢を感じた。 ○ 心身共に健康で心豊かに暮らせるのが一番だと思う。職員様方にも志をもって滋賀県を守り住みやすい県である為のご尽力をお願いしたいと思います。
未来・子ども	○ やはり県職員として、未来ある子どもたちに何をすればいいのかわれはならない。 ○ 子供は滋賀の宝、そして日本の宝、子供達こそが将来の滋賀を作ると思う。子供や孫の世代に良い滋賀を残したい。 ○ 子どもを大切に作る施策をすることで、親である働きざかりの世代が暮らしやすく、それが今と未来の地域を守ることになると思う。

寄り添う	○ 困っている人に寄り添い、一人ひとりが幸せを感じられる。という部分が、今の社会に必要だと思う。 ○ 県職員は県民のすべてを担っての仕事だと思うので、しっかり取り残しなく周りを見て職を全うしてほしいと思う。
幸せ・笑顔	○ 笑顔は、赤ちゃんから、年配まで、心を和ます意味でもある。 ○ 滋賀県をつくる原動力は県庁の職員。職員が感謝と笑顔をもって日々の仕事に、人に接するならばその輪は必ずや県民の心に届き、滋賀県をさらに発展する明るい自治体にすることができる。
ありがとう・感謝	○ 感謝し感謝されるような安心できるコミュニティがある土地に、人は集まると思う。 ○ 感謝の気持ちを持つことから全てが始まると思っています。大人一人ひとりが、いつもありがとうの気持ちを持つことが、未来の子供達への何よりも大事な教育。
三方よし(の精神)	○ 「三方よし」というように具体的なスタンスが前面に掲げられる方が努力する焦点が分かりやすく、迷った時の判断の拠り所になる。 ○ 三方よしの考え方こそ、滋賀県として誇りであり、日本に留まらず、世界に発信し、全ての人々が豊かで幸福であるよう、そのモデルであって欲しいと願う。 ○ 三方よしの本質意義を十分に理解して職責を遂行してもらいたい。

2 最終候補の提案

職員・県民共感度調査の結果を踏まえ、候補①および②を選定。更に、両調査結果の傾向が異なることから、調査から得られた共感ポイントを統合した「**新候補**」を用意した。以下の3つをベースに、“滋賀県職員の志(パーパス)”を決定したい。

候補①	琵琶湖と生きる。笑顔を広げる。未来へつなぐ。
“志”に込めた思い	滋賀の山、川、里、湖、そして海までのつながりや、歴史・文化も含めた暮らしの象徴である琵琶湖と共に生きる覚悟を持ち続けます。 <u>困っている方や弱い立場の方に寄り添い、誰一人取り残さず一人ひとりが幸せを感じ、滋賀に関わるすべての方が、一人でも多く笑顔でいられる、ありがとうと感謝に満ちた社会を築きます。</u> 今だけでなく、次世代を担う子どもの視点に立ち、 <u>琵琶湖・自然やそこでの暮らしを未来へ引き継いでいきます。</u>
候補②	琵琶湖と暮らしを守り、幸せを三方よしてつないで未来を豊かにする
“志”に込めた思い	滋賀の山、川、里、湖、そして海までのつながりを持つ琵琶湖を中心とした自然、 <u>そしてその恵みを受けた滋賀の暮らしを支え、守ります。</u> 三方よしの精神に立ち、県民、企業・団体や国・市町の皆様をつなぎ、困っている方に寄り添います。 <u>そして、誰一人取り残さず一人ひとりが幸せを感じられるよう、今だけでなく、次世代を担う子どもの視点に立ち、豊かな滋賀の未来を築きます。</u>
新候補	琵琶湖とくらしを守る。三方よして笑顔を広げる。豊かな未来をともにつくる。
“志”に込めた思い	滋賀の山、川、里、湖、そして海までのつながりを持つ琵琶湖を中心とした自然、 <u>そしてその恵みを受けた滋賀の暮らしを支え、守ります。</u> 三方よしの精神を持って、困っている方一人ひとりに寄り添い、一人でも多くの方が笑顔でいられるよう、ありがとうと感謝に満ちた社会を築きます。 今だけでなく、次世代を担う子どもの視点に立ち、県民、企業・団体や国・市町の皆様をつなぎ、 <u>滋賀に関わるすべての人とともに豊かな未来をつくりま</u> す。

下線部分は、県民共感度調査時のものから追記等した箇所です。

3 これまでの検討等の振り返り①

(1) パーパスとは...

- ✓ 自社の存在意義を明確化し、社会に与える価値を示す
- ✓ 心の内側から湧き出てくる強い思い、**志** ※名和高司著『パーパス経営』(東洋経済新報社)

⇒ “滋賀県職員の志(パーパス)”の「発掘」に向けた問いかけは...
『**何のために、誰のために、私達が今、滋賀県職員として共に働いているのか**』



(2) 取り組むねらい

- ✓ 職員のチームワークとともに、仕事へのモチベーションを高め、また未来の担い手にも滋賀県職員として一緒に働きたいと選んでもらい、感じてもらうこと
- ✓ 県民や企業等の皆様に志(パーパス)に**共感**してもらい、**選ばれる滋賀県**として、新たな価値や魅力を共に創る「共創」につなげること

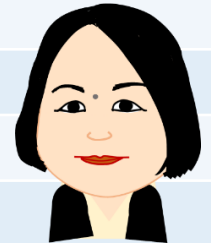
滋賀県基本構想	県民の皆さんとともに、滋賀の未来をつくっていくための <u>滋賀県域の将来ビジョン</u> 。
滋賀県職員の志(パーパス)	法人としての <u>存在意義</u> であり、将来ビジョンの実現に取り組む <u>滋賀県職員共通の原点</u> 。

3 これまでの検討等の振り返り②

(3) 検討の経過

時期	内容
令和4年度 1～3月	〔1/4〕 知事年始挨拶（全庁に対し議論したい旨発信）
	〔3/3〕 知事談話（パーパスへの思い、議論を全職員へ投げかけ）
	〔3/20〕 県政経営会議 （「滋賀県庁のパーパスを考えてみる」と題して意見交換）
令和5年度 4～6月	〔4/3〕 年度初め知事挨拶、定例会見（今年度方向性を出していく旨発信）
	〔4/6～〕 新採職員研修等の職階別研修で意見募集
	〔4/14～〕 庁内掲示板「滋賀県庁のパーパスを考えてみる！」スタート（現在38回）
	〔4/27、5/25〕 行革連絡員会議（パーパス検討趣旨、進め方、WG設置等）
7～9月	〔7/1～9/30〕 パーパス発掘WG活動（WS開催、レポート取りまとめ等）
	〔7/25～9/5〕 パーパス発掘ワークショップ開催（本庁・地方で計10回）
	〔8/7〕 県政経営サマーセミナー （研修テーマ「パーパス経営に学ぶ組織づくり」）
	〔9/14〕 行革連絡員会議（今後の進め方）
	〔9/27〕 知事とWGメンバーの職員座談会 ⇒ WG：“滋賀県庁のパーパス”の「発掘」に向けたWGレポート取りまとめ
10～12月	〔10/17〕 県政経営会議 （“滋賀県庁のパーパス”策定に向けたキーワードと意思の絞込み等）
	〔11月〕 “滋賀県職員の志(パーパス)”の候補案の検討（おたがいさま、おかげさまバンク活用）
	〔11/16〕 行革連絡員会議（決定に向けた流れ）
	〔12/1～17〕 職員共感度調査 の実施
	〔12/26〕 県政経営会議 （職員共感度調査結果、候補案の絞込み等）
1月～	〔1/19～21〕 県民共感度調査 の実施

県政経営会議での議論をはじめ、職員意見募集、WG活動、WS開催、県政経営セミナー、職員・県民共感度調査の実施などさまざまな取組をしてきましたね。



18のキーワード

8候補作成

上位3候補

4 志(パーパス)の実践に向けて

(1) 方向性 ～職員共感度調査を踏まえて～ ※前回経営会議より

“滋賀県職員の志(パーパス)”の取組は、**長期的に取り組んでいくもの**。

- ✓ 庁内：これまでの検討で**プロセスを重視**したのと同様に、強制ではなく、その過程においていかに多くの職員に自分事として捉えてもらうかを重視。
- ✓ 庁外：広く情報発信することに加え、志(パーパス)に沿った施策・事業等の実践や結果を通じて、共感を得ることを重視。

(2) “滋賀県職員の志(パーパス)”が決まれば、まずは、以下から取組開始してはどうか…?

- ✓ 決定したことについて、**対外的な発信**（知事定例記者会見、議会報告、県HP等）
- ✓ “滋賀県職員の志(パーパス)”を踏まえ、組織目標と合わせて、所属の“志(パーパス)”は何かを**所属職員で意見交換**
- ✓ 名刺、職員採用案内などへの掲載 等々

県庁全体の“滋賀県職員の志(パーパス)”を、職員個人に身近な所属に落とし込むとどうなるでしょうか？

